

ウィリアム・ターナー作『解体されるため最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テムレール号』の鑑賞とタイトルの先行理解

立原慶一

ウィリアム・ターナー作『解体されるため最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テムレール号』（1838年 油彩、122×91 cm、ロンドン・ナショナルギャラリー）を中学3年生に鑑賞させると、命題風のタイトルから絵にドラマがあるものと感じ、文学的な想像力を働かせてこの風景画を多角的に捉える傾向が強い。絵は普通、視覚性に働きかけるが、タイトルの先行理解に触発されたと思われる文言が、どのくらいワークシート上に記され、主題感受にどのような影響を与えているのだろうか。本実践研究では、これを問題意識として設定する。タイトルの先行理解に触発されたと思われる文言が、どのくらいワークシート上に記され、それが情感と化して主題感受にどのような影響を与えているのか。

本題材ではタイトルが示す「解体の物語」から連想される、語句をワークシートに記しながらも、それに振り回されず主体的な鑑賞を行っている生徒は38名（33%）に達した。それが成就するためには、鑑賞能力における一定のレベル（描写・彩色法など造形的特徴から美的特性を3回以上感受した者）と、本題材に特有な美的特性の感受法が、要請される。本稿では、それらの様相を究明してきた。マイナス価値観的な語句は約8割の生徒によってワークシートに記載された。しかし絵の主題はそれとは裏腹に、プラスの価値感情に浸透されたものが、全体ののべ6割の生徒によって感受された。それは鑑賞能力を發揮して、プラスの価値感情的な美的特性がモチーフ・情景の性格づけの仕方から感知され、絵の描写・彩色法から数多く感受されたことによるのである。

鑑賞能力が高いレベルの生徒に共通して認められる特徴は、本題材で主題感受をめぐってマイナス価値感情とプラス価値感情が交錯するような、複合的な情意体験を行ったことである。前者は絵のタイトルから連想される、「役目を終えた」「消え行く」「もうすぐ終わる」などの語句に伴う情感に、後者はモチーフ・情景の性格づけから感知される美的特性に起因する。それは「希望（に満ちた）」「期待（を込めた）」「堂々とした」「壮大な」「輝かしい」「照らされた」「凛々しい」「前進するような」など形容語で言い表された。

さらに描写・彩色法から感受される美的特性に由来する。それは「美しい」「包み込むような」「鮮やかな」などの美的賓辞で表された。また社会・文明観的テーマと自然観的テーマを併記する形で、両義的なテーマが鑑賞高能力者によって感受された。テムレール号が主なモチーフとして画面左下に、主たる情景として日没光景が右下に配置されたが、それはいわば画面全体を二分するような構図法に根拠が求められる。

今回の実践で、命題的知的把握が約2割もの生徒によってなされたのも、本題材の特徴である。それは次の点に理由が認められよう。本絵に特有の命題的題名「解体されるため最後の停泊地に曳かれてゆく戦艦テムレール号」は造形的特徴から得られるべき美的感受ばかりでなく、知的理解も鑑賞活動に要請されているような印象を、生徒に与えたからではなかろうか。